

JNSA の今後に向けて

株式会社ブロードバンドタワー
会長職務代行副会長
大和 敏彦



佐々木前会長の内閣官房情報セキュリティセンター（NISC）の情報セキュリティ補佐官就任に伴い、本年9月より日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）の会長職務代行を務めさせていただいています大和です。微力ながらJNSA発展のために貢献していきたいと思えます。よろしくお願ひします。また、佐々木前会長のJNSAへのご貢献に感謝するとともに、今後とも引き続きご指導をお願ひしたいと思えます。

私は、3つの条件を満たしている協会が良い協会だと思えます。一つ目が協会の目的が明確であり、世の中で必要とされていること。二つ目が、会員の参加意識が高く、実際の活動が活発であること。最後が、協会の体制が確立し、機能していることです。この三つの点からJNSAの現状を振り返ってみたいと思えます。JNSAの目的は「ネットワーク社会の情報セキュリティレベルの維持・向上及び日本における情報セキュリティ意識の啓発に努めるとともに、最新の情報セキュリティ技術および情報セキュリティへの脅威に関する情報提供などを行うことで、情報化社会へ貢献すること」です。

ネットワークセキュリティの標準化や高度なセキュリティ脅威への対策が進む一方で、新聞を賑わせている尖閣映像流出問題や、警視庁の国際テロの捜査情報がインターネット上に流出した問題における情報管理をみていると、情報漏えい対策以前の、情報管理体制や組織としてのセキュリティ意識に問題が有るように思えます。企業でも、情報管理体制を持ち、対策をとっているところが多いと思えますが、まだまだそうでないところもあるでしょう。一層の普及・啓発や対策の面でJNSAが貢献しなければいけません。

参加意識と活動に関しては、部会、WGへ参加していただいているメンバーも多く、活発な活動のもと、インターネット安全教室等の数々の素晴らしい成果を出してきています。体制は、下村事務局長を中心とした事務局体制、理事会、幹事会、部会、WGいずれも参画意識の高いメンバーによって運営され機能しています。このような協会のあり方は今後も継続、強化していきたいと思えます。

更に既に発表していますように、2009年11月には英国に本部を置く Information Security Forum（ISF）との協業に合意し、本年9月には大韓民国知識情報セキュリティ産業協会（会長；イ・トクチュン、本部；大韓民国ソウル市、KISIA）および特定非営利活動

法人 日本セキュリティ監査協会(会長;土居範久、本部;東京都中央区、JASA)と情報セキュリティ事業拡大にむけて相互に協力することに合意しています。これによって、JNSAおよび皆様の活躍の場がグローバルに広がったわけです。

情報化社会も、インフラ面ではクラウド・コンピューティングの進展、スマートグリッドのような新しい応用分野、スマートフォン、家電の端末化など、進化し分野が広がってきています。このような状況の中で、目的、参画、体制ともに整った協会として、今後もメンバー全員の協力のもとに、より良い安心・安全なネットワーク社会が築けるよう、貢献していきましょう。